

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所もこもこ+			
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 15日 ~ 令和8年 1月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20人	(回答者数)	20人
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 1日 ~ 令和8年 2月 9日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 12日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家族支援として、勉強会や親子活動がおっこなわれていること	勉強会や親子活動の日を第2土曜日に設定している。 支援プログラムに沿った様々な活動を取り入れている。	保護者の都合で参加できない場合、別日程での参観や滑動参加を促す。
2	自然災害等の発生に備え、必要な訓練が行われていること	送迎中の自然災害等の発生を想定した訓練を行ったり、保護者も一緒に避難訓練をしたりして、訓練に対する意識をもっていただいている。	定期的な訓練を継続する。
3	職員同士の連携（コミュニケーション）が十分であり、支援の在り方や滑動内容の工夫、生活環境の設定等、常にフィードバックされていること。	日常的に、職員同士、話し合う機会を設けている。分からぬことがそのままにならないように、助言し合える雰囲気である。	支援スキルが向上できるように、ケース会や勉強会、研修参加を継続する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「本人支援」「家族支援」「移行支援」が順調に進んでいるか、保護者に明確に伝わっていないこと	計画書の中に、これらの文言が入っていない。	計画書の中に、これらの文言を入れて明確化し、説明する。
2	子どもの活動等のスペースや職員配置数、構造化された生活環境であるか、保護者と共通理解が不十分であること	日常の子どもの様子を参観する機会がない。	日常の様子が把握できる参観日を設ける。 日々の連絡ノートで、どの場所でどのような活動をしているのか、その目的等をきちんと伝える。
3	定期的な面談や子育てに関する助言等の支援をしているつもりになっていたこと	保護者の気持ちに寄り添えていないことがある。	保護者が気持ちを発信しやすいツールを用いる。 (アンケートなど) 面談の回数を増やす。